

適正配置検討にあたってのエリア設定について

資料 2

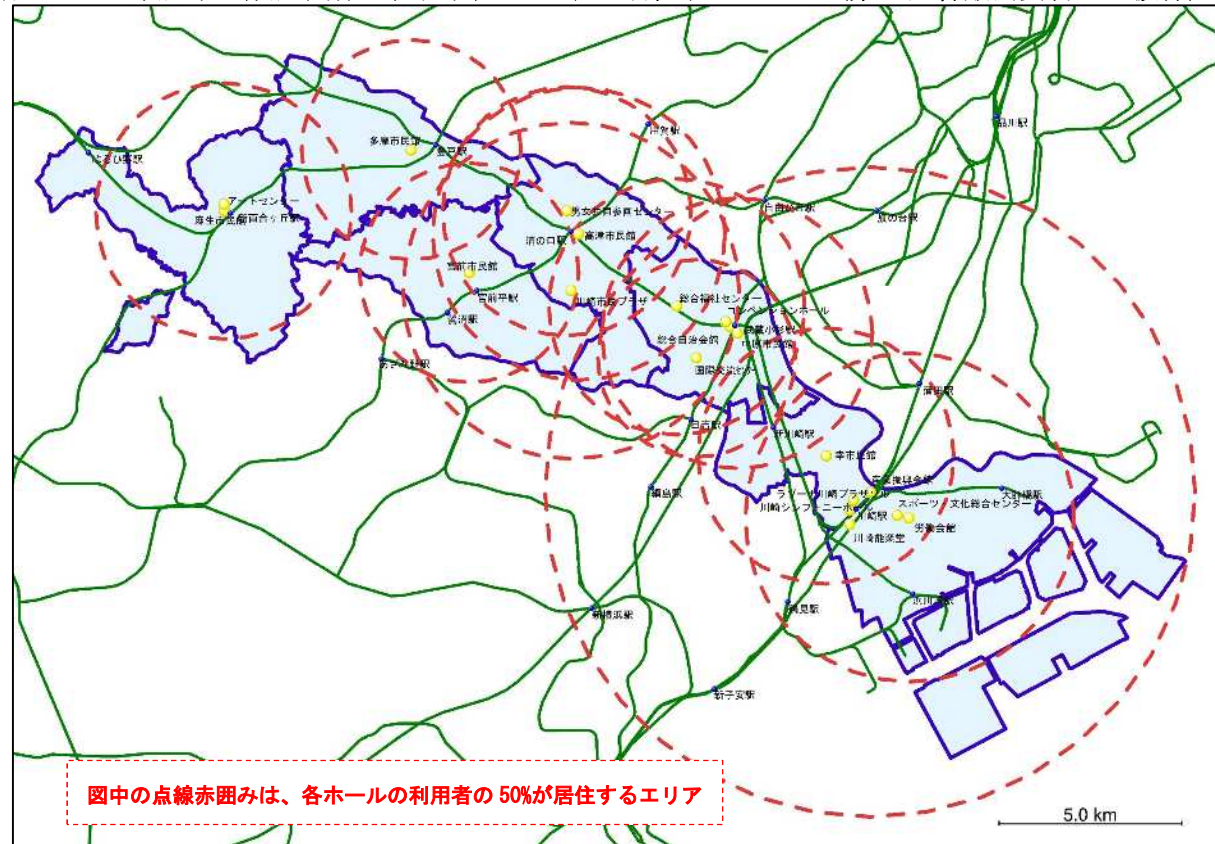
1. 本市の公共ホールの利用者の居住エリアについて（第2回検討専門部会の振り返り）

利用者の居住エリアが判明しているホールについて居住エリアの状況を分析したところ、以下の点が明らかとなった。

ポイント① 川崎区や中原区、高津区の一部においては、比較的公共ホールが密集しているエリアがあるが、多摩区、宮前区、麻生区においては周辺に代替するホールが無いエリアも存在

ポイント② 利用用途によっては他の複数の施設へ容易にアクセスできるエリアが市域全体に広がっている可能性がある

各ホールの利用者（利用団体の代表者）の50%が居住するエリア（第2回審議会資料より抜粋）



上記図を参照すると、比較的交通便利性の高い「川崎市産業振興会館」を除き、各ホールとも利用者（利用団体の代表者）の半数以上は当該ホールから概ね半径5km圏内に居住しており、川崎市総合計画に定める「生活行動圏」内での移動範囲と概ね一致する。

なお、「川崎市産業振興会館」についても市内利用者に着目すると「生活行動圏」での移動が多数（川崎区・幸区の居住が半数以上）となっている。

各施設の利用者の居住エリアの特徴等は次ページのとおり。

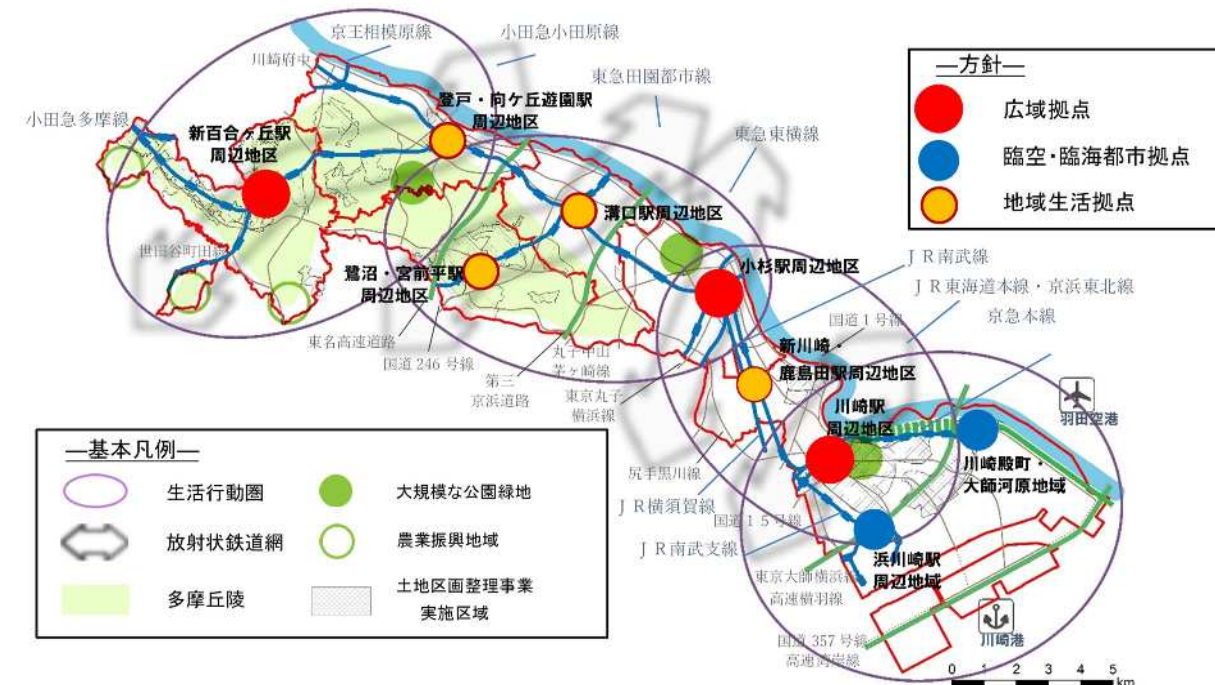
～川崎市のまちづくりの考え方～

川崎市では、成長と成熟が調和し、誰もが幸せを感じられる川崎をめざし、総合計画を策定し、各事業を推進している。

総合計画においては、本市がめざす都市像や、まちづくりの基本目標などを定めており、「**選択と集中**」による拠点整備と、より身近なまちづくりを進めるための『都市構造と交通体系の考え方』を示している。

都市構造と交通体系の考え方（抜粋）

- 本市はこれまで、市内各地域の自立と連携をめざす地域連携型のまちづくりを推進。
- 特に、厳しい財政状況を踏まえ、選択と集中により、広域拠点（川崎駅、小杉駅、新百合ヶ丘駅周辺地区）を中心に拠点整備を推進。
- 当面は若い世代の転入などによる人口増加が見込まれるが、首都圏等の都市部と同様に生じている郊外部への子育て世代の転出超過の傾向や将来の人口減少・超高齢社会の到来等を見据えた都市構造及び交通体系を考えると、**住まいを起点とした、市民の日常生活を支える身近な生活エリアの重要性が、これまで以上に高まる。**
- 市民の日常的生活エリアである「生活行動圏」は、広域的に展開する市民の行動や産業経済活動、交通網の整備状況や地域の特性などから、鉄道沿線を中心に展開しており、**川崎駅・臨海部周辺エリア、川崎・小杉駅周辺エリア、中部エリア、北部エリアの概ね4つに大別**することができ、4つの生活行動圏のエリアでは、地域の特性を活かしたまちづくりを進めることが重要。
- 超高齢社会の到来等を見据え、地域のニーズにきめ細やかに対応するため、「誰もが安心して暮らせる住まいと住まい方の充実」や「地域生活拠点及び交通便利性の高い身近な駅周辺などのまちづくり」を推進**するとともに、身近な地域間の相互の連携を促すため、公共交通を主体とした駅へのアクセス向上等の「将来にわたる市民の暮らしを支える交通ネットワークなどの強化」に取り組む。これらにより、地域生活ゾーンの更なる自立と連携強化や沿線等の地域の相互連携を促進し、鉄道を主軸とした都市の一体性と都市機能の向上を図り、身近な地域が連携するまちづくりを進める。



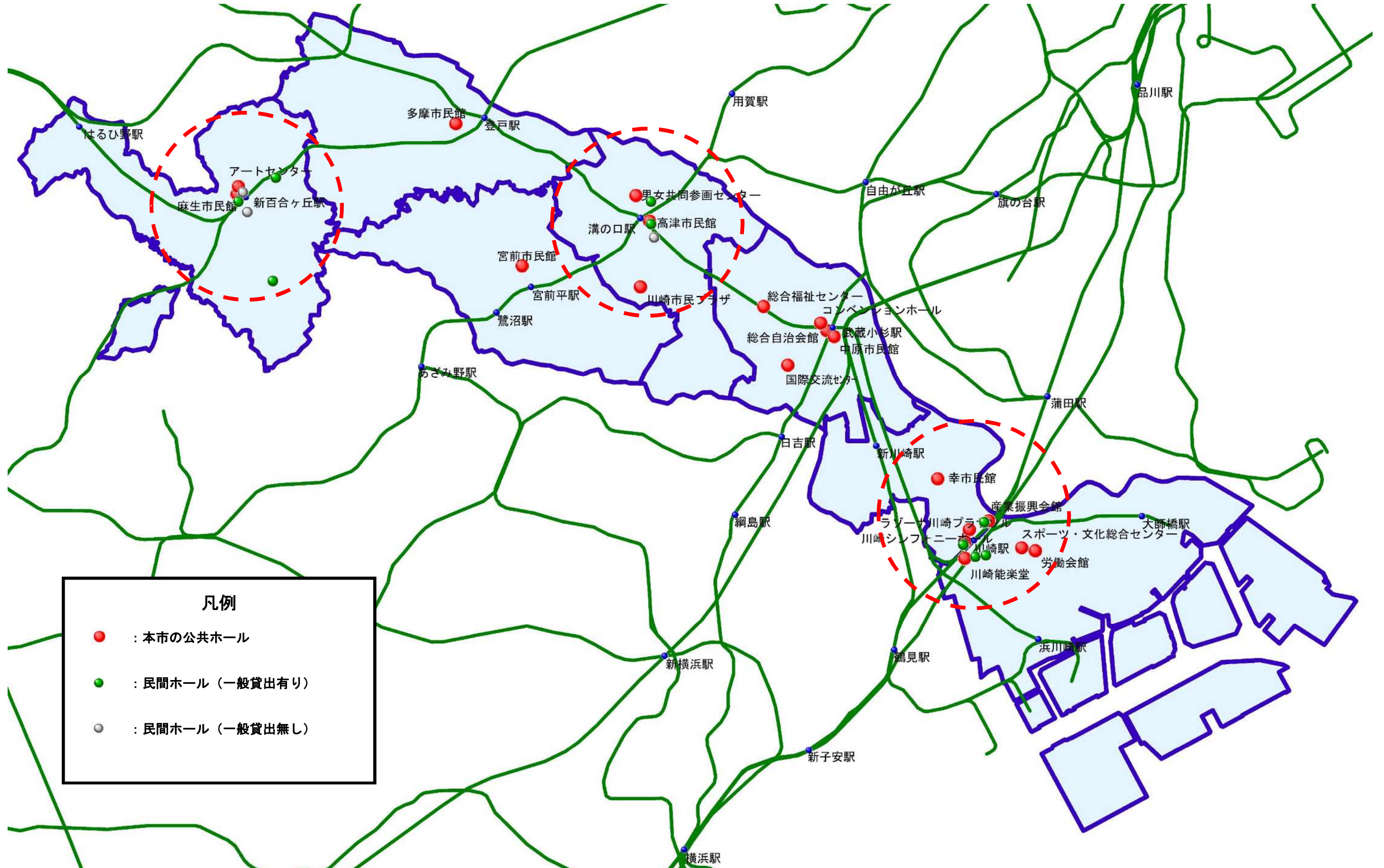
各施設の利用者の居住エリアの特徴等

施設名	利用者の5割が居住する当該ホールからの距離	利用者の居住エリアの特徴	半径2km圏内の本市の公共ホール (カッコ内は当該ホールからの距離)
労働会館	半径4500m圏内	●利用者の5割は当該ホールから半径4.5km圏内に居住している。利用者の約40%は川崎区に居住しており、 地域での利用が多い ことが窺える。 ●隣接する横浜市鶴見区の居住者も一定程度利用している。	●スポーツ・文化総合センター(330m)／●産業振興会館(1280m) ●ラゾーナ川崎プラザソル(1600m)／●川崎能楽堂(1650m) ●川崎シンフォニーホール(1660m)
産業振興会館	半径8900m圏内	●利用者の5割の居住圏域は、当該ホールから半径8.9kmと広く、 他ホールと比して利用者の居住エリアの分布が広い 。立地する川崎区の利用者がやや多いが突出したのではなく、 市域のみならず、隣接他都市の居住者を含めて広く利用されている ことが窺える。 ●隣接する横浜市鶴見区の居住者も一定程度利用している。	●ラゾーナ川崎プラザソル(500m) ●川崎シンフォニーホール(750m) ●スポーツ・文化総合センター(980m) ●川崎能楽堂(1040m) ●労働会館(1280m)／●幸市民館(1570m)
幸市民館	半径3500m圏内	●利用者の5割は当該ホールから半径3.5km圏内に居住している。利用者の約30%は幸区に居住し、約60%は幸区と隣接区(川崎・中原)の居住者であることから、 地域での利用および隣接区の居住者の利用が多い ことが窺える。	●ラゾーナ川崎プラザソル(1420m) ●産業振興会館(1570m) ●川崎シンフォニーホール(1620m)／●川崎能楽堂
国際交流センター	半径2700m圏内	●利用者の5割は当該ホールから半径2.7km圏内の居住している。利用者の約40%は中原区に居住しており、 地域での利用が多い ことが窺える。 ●隣接する横浜市港北区の居住者も一定程度利用している。	●総合自治会館(1240m) ●コンベンションホール(1280m) ●中原市民館(1310m)／●総合福祉センター(1510m)
中原市民館	半径3700m圏内	●利用者の5割は当該ホールから半径3.7km圏内に居住している。利用者の約30%は中原区に居住しているが、川崎区、幸区、高津区、宮前区の居住者も一定程度利用していることから、 地域での利用が中心であるものの、他の市民館と比して市域全体での利用が多い ことが窺える。	●総合自治会館(250m) ●コンベンションホール(450m) ●国際交流センター(1310m) ●総合福祉センター(1800m)
総合福祉センター	半径3500m圏内	●利用者の5割は当該ホールから半径3.5km圏内に居住している。利用者の約30%は中原区に居住しているが、隣接する高津区や川崎区の居住者も一定程度利用していることから、 地域での利用が中心であるものの、他のホールと比して市域全体での利用が多い ことが窺える。	●コンベンションホール(1400m) ●国際交流センター(1510m) ●総合自治会館(1560m) ●中原市民館(1800m)
川崎市民プラザ	半径4600m圏内	●利用者の5割は当該ホールから半径4.6km圏内に居住している。突出して利用者が多い居住エリアはないものの、利用者の約60%は立地する高津区と隣接区(中原・宮前・多摩)の居住者であることから、 地域および隣接区の居住者の利用が多い ことが窺える。 ●東京都区部や横浜市の居住者も一定程度利用している。	●高津市民館(1560m)
高津市民館	半径4000m圏内	●利用者の5割は当該ホールから半径4.0km圏内に居住している。立地する高津区の利用者がやや多いが突出したのではなく、 他の市民館ホールと比して、市域全体での利用が多い ことが窺える。	●男女共同参画センター(700m) ●川崎市民プラザ(1560m)
男女共同参画センター	半径3400m圏内	●利用者の5割は当該ホールから半径3.4km圏内に居住している。利用者の約40%弱は高津区に居住し、利用者の約80%弱は高津区と隣接区(中原・宮前・多摩)の居住者であることから、 地域での利用および隣接区の居住者の利用が多い ことが窺える。	●高津市民館(700m)
宮前市民館	半径3000m圏内	●利用者の5割は当該ホールから半径3.0km圏内に居住している。利用者の約40%は宮前区に居住しており、 地域での利用が多い ことが窺える。	なし ※最も近いホールは川崎市民プラザ(2830m)
多摩市民館	半径3000m圏内	●利用者の5割は当該ホールから半径3.4km圏内に居住している。利用者の約50%弱は多摩区に居住しており、 地域での利用が多い ことが窺える。	なし ※最も近いホールは宮前市民館(3720m)
麻生市民館	半径3500m圏内	●利用者の5割は当該ホールから半径3.5km圏内に居住している。利用者の約40%強は麻生区に居住しており、 地域での利用が多い ことが窺える。	●アートセンター(180m)

2. 市内の公共ホールと民間ホールの配置状況等

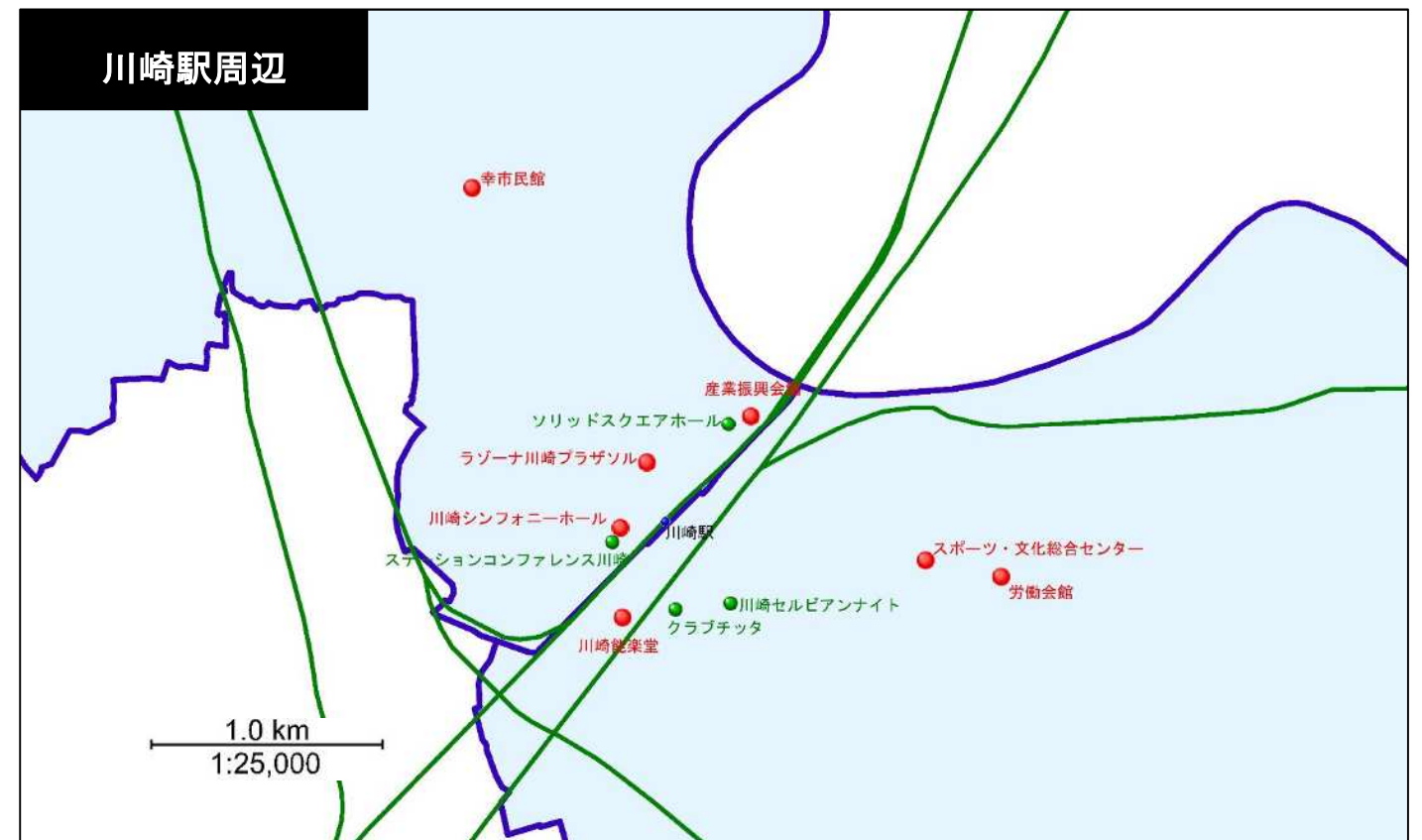
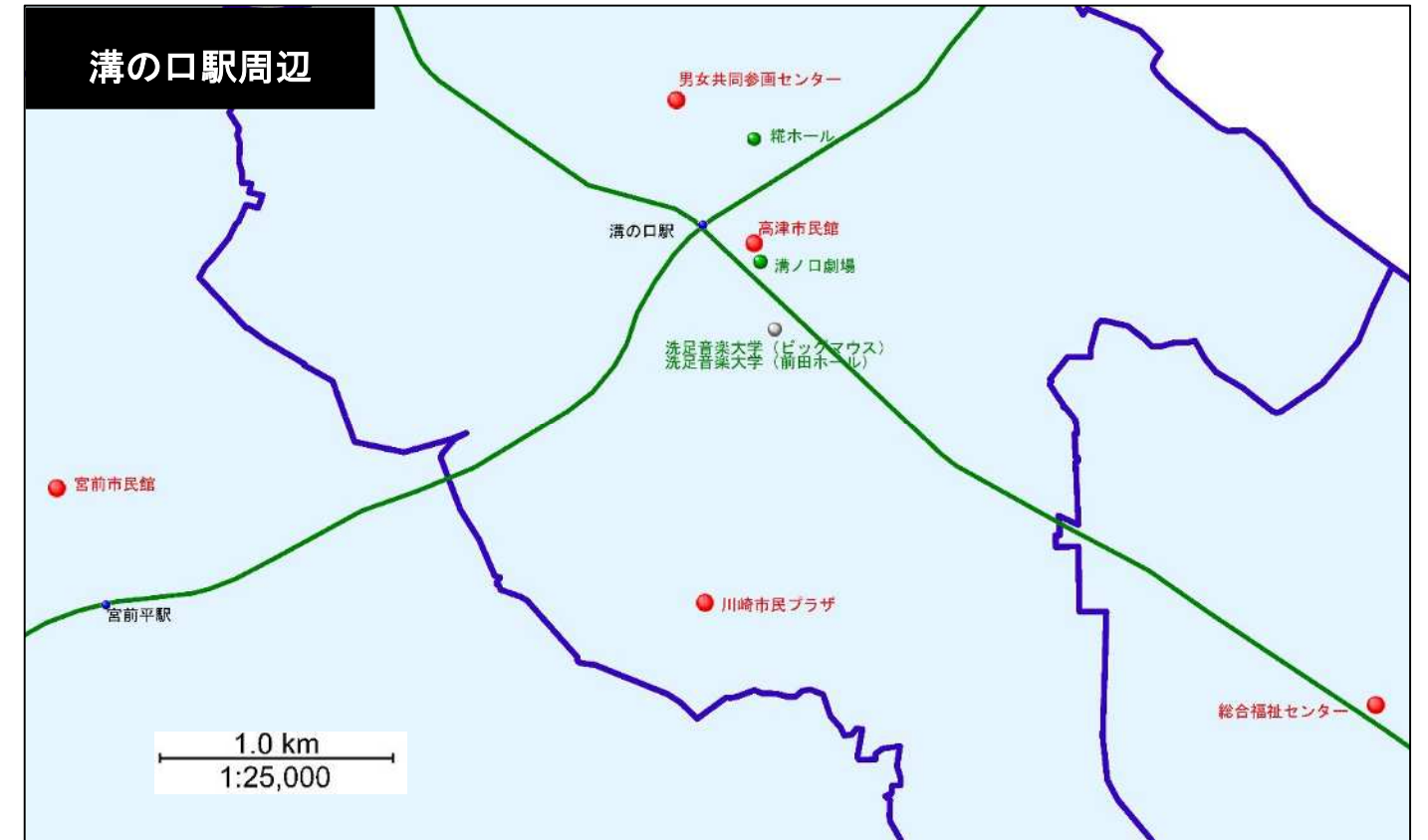
市内の民間ホールの配置状況及び主な利用用途はについて整理を行ったところ、川崎駅周辺、溝の口駅周辺、新百合ヶ丘駅周辺に比較的密集していることがわかる（拡大図は次ページ参照）。

なお、施設は「音楽のまち・かわさき」推進協議会ホームページに掲載されているホールを選定。



民間ホールの施設概要

立地場所	施設名	客席形式	定員	一般貸出	主な用途
川崎区	クラブチッタ	スタッキング	601席	可	ライブイベント
川崎区	川崎セルビアンナイト	スタッキング	500名以上	可	ライブイベント
幸区	ステーションコンファレンス川崎	スタッキング	270席	可	会議・セミナー等
幸区	ソリッドスクエアホール	可動	276席	可	会議・セミナー等
高津区	洗足学園音楽大学（前田ホール）	固定	1114席	不可	音楽
高津区	洗足学園音楽大学（ビッグマウス）	スタッキング	180席	不可	音楽
高津区	糀ホール	固定・可動	142席	可	音楽・講演会
高津区	溝ノ口劇場	スタッキング	80席	可	音楽・演劇
麻生区	新百合トウェンティワンホール	可動・スタッキング	450席	可	多目的
麻生区	昭和音楽大学（テアトロ・ジューリオ・ショウワ）	固定	1367席	不可	多様な公演
麻生区	昭和音楽大学（ユリホール）	固定	359席	不可	音楽
麻生区	昭和音楽大学（スタジオ・リリエ）	可動	264席	不可	多様な公演
麻生区	昭和音楽大学（ラ・サーラ・スカラ）	固定	184席	不可	小規模公演・講座
麻生区	ミュージックシティ百合丘	スタッキング	110席	可	多目的
麻生区	しまりすミュージック	スタッキング	53席	可	音楽



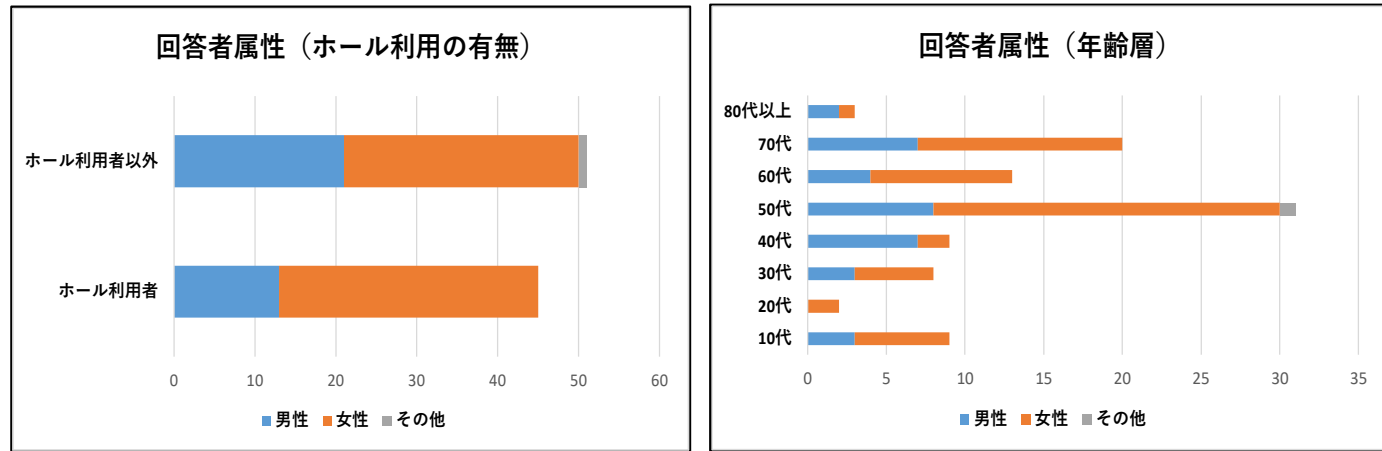
3. 利用者の本市公共ホールへのアクセス手段等について（アンケート調査結果）

各ホールの利用団体の代表者の居住エリアについては、前述のとおりであるが、一般利用者の交通アクセス手段、ホールを選ぶ際に重視する項目等についてアンケート調査を実施した。

調査対象	: ホール機能を有する本市公共施設を利用する全ての利用者
調査方法	: 各ホールに QR コード付きアンケート用紙を配架し、Web 上で回答を収集 その他、ヒアリングを実施した団体代表者等を通じて、団体内の利用者へ回答依頼 ※利用したホールと回答は紐づけされている
調査日程	: 令和4年2月17日（木）～令和4年4月22日（金）
回答総数	: 96人（うち、ホール利用者45人）

(1) 回答者属性

回答者はホール利用者が全体の約47%、年齢層は50代以上が約71%であった。



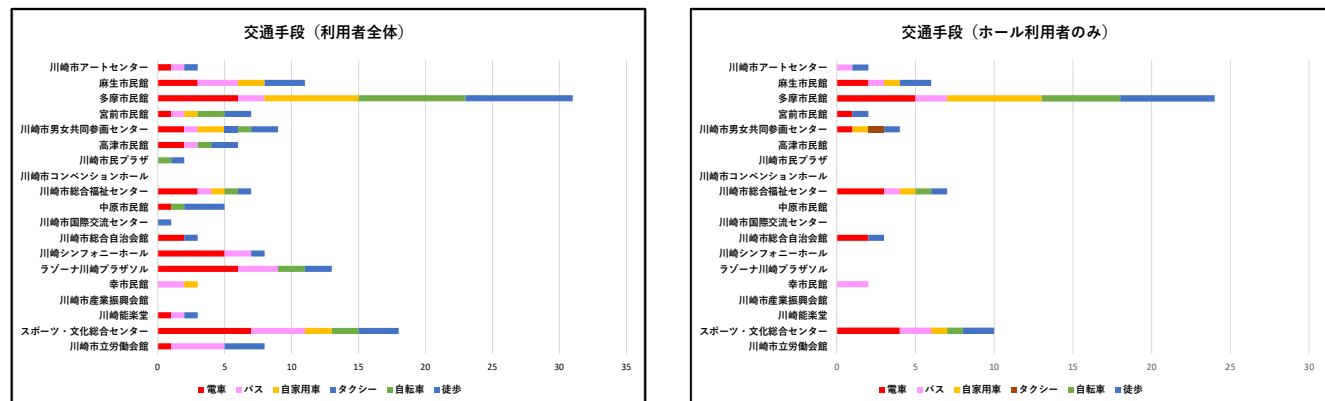
(2) ホールへの実際の交通アクセス手段について（複数回答あり）

利用者全体（ホール以外の利用者を含む）及びホール利用者の交通手段については、公共交通機関（電車・バス）を利用している方が多い。

ホールへのアクセス手段として、公共交通機関（電車とバスいずれか又は両方）利用している方は、利用者全体の約60%（96名中58名）であり、ホール利用者に限定すると約55%（45名中25名）であった。

今後のホールの適正配置検討にあたっては、公共交通機関でのアクセスのしやすさを踏まえることが重要であることが窺える。

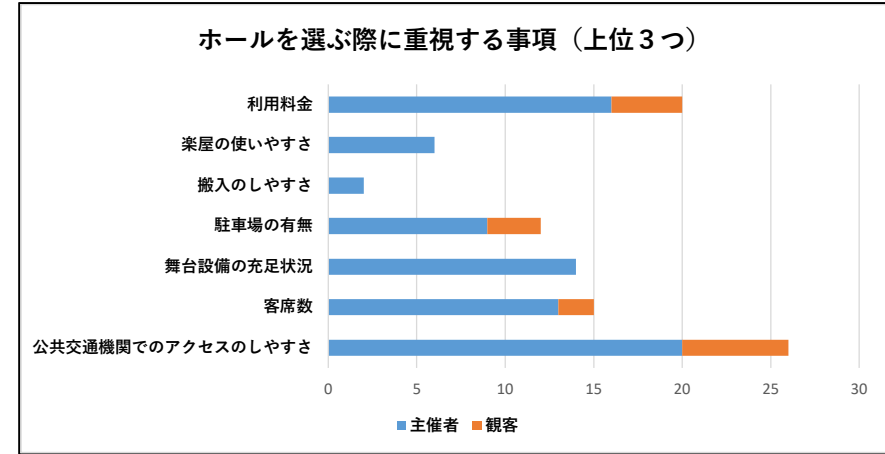
なお、下図において母数が無いホールは有効回答が得られなかったホールである。



(3) ホールを選ぶ際に重視する項目（3つまで回答可とした）※選択及び自由回答式

ホール利用者がホールを選ぶ際に重視する項目としては、主催者・観客ともに「公共交通機関でのアクセスのしやすさ」が最も多く、「利用料金」を上回っている。

(2) の設問への回答と同様に、公共交通機関でのアクセスのしやすさを念頭に今後の適正配置検討を進めることが重要であることが窺える。



(4) 他に利用するホールについて（複数回答あり）※選択及び自由回答式

各ホールの利用者が普段から利用する他のホールについて回答があったものは以下のとおりであり、利用用途によっては他のホールの利用可能性があることが窺える。

回答した利用施設	他に利用するホール
スポーツ・文化総合センター	労働会館、川崎シンフォニーホール、その他（具体的ホール名不明）
幸市民館	労働会館
ラゾーナ川崎プラザソル	幸市民館、宮前市民館、多摩市民館、スポーツ・文化総合センター、アートセンター
川崎シンフォニーホール	スポーツ・文化総合センター、高津市民館、多摩市民館、麻生市民館、サントリーホール、東京文化会館、東京芸術劇場）、東京オペラシティ、新国立劇場、すみだトリフォニーホール、横浜みなとみらいホール、
総合自治会館	中原市民館、高津市民館、国際交流センター
総合福祉センター	国際交流センター、多摩市民館、麻生市民館、宮前市民館
男女共同参画センター	高津市民館、川崎市民プラザ
宮前市民館	幸市民館、多摩市民館、麻生市民館
多摩市民館	労働会館、スポーツ・文化総合センター、高津市民館、宮前市民館、多摩市民館、麻生市民館、男女共同参画センター
麻生市民館	幸市民館、宮前市民館、多摩市民館、男女共同参画センター、アートセンター、その他（具体的ホール名不明）
アートセンター	麻生市民館

4. 適正配置検討にあたってのエリア設定の考え方

本市のまちづくりの考え方、ホールの利用実態（資料1）、ホール利用者の居住エリア、交通アクセス手段の状況等を踏まえ、以下の通りエリア設定を行い、今後のホールの適正配置等の検討を行うこととする。

適正配置検討にあたってのエリア設定の考え方

- 生活行動圏（川崎駅・臨海部周辺エリア、川崎・小杉駅周辺エリア、中部エリア、北部エリア）を基本に市域に4つのエリアを設定する
- 各エリア内において、適正配置、各ホールの役割分担についての検討を実施